

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学のプレゼンス・ブランド力向上に向けた積極的な情報発信の強化を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

学生の地元定着に関する企業側の意識向上を図るため、企業を対象として、富山県との共同事業「TOYAMA採用イノベーションスクール」を実施し15社が参加しており、平成30年度に受講した企業において、スクールで自ら開発した「新たな採用手法」を実践した結果、令和元年度には7名を採用することができているなど具体的な成果につながっており、日本経済新聞に掲載の「2020年版人事が見る大学イメージランキング北陸3県」で総合ランキング1位（全国20位）、採用を増やしたい大学部門全国2位となっている。（ユニット「若者の地元定着による地方創生」に関する取組）

令和2年3月31日付けで男女共同参画推進室（平成20年度に設置）を発展的に解消し、学内の男女共同参画を含むダイバーシティ推進のためのプラットフォームとして、令和2年4月1日付けで「富山大学ダイバーシティ推進センター」を新設することを決定し、事業実施体制の強化を図っている。（ユニット「男女共同参画の推進」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

大学のプレゼンス・ブランド力向上に向けた積極的な情報発信の強化

大学が実施する「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に向けた取組について、学内及び学外に対して広く共有を図るため、取組事例の一覧をウェブサイト上で公開し、積極的に情報発信を行っているとともに、一般市民を対象としてSDGsの更なる普及を行うため、富山市が開催した「富山市SDGsウィーク」（令和2年1月20日～26日）のイベント企画「SDGsギャラリー展」において訪れた参加者に対してオリジナル冊子を配布し、取組事例を分かりやすく紹介しているほか、学生・教職員全員が、富山大学の魅力向上についてともに考え、取り組む意識を醸成するため「つくりあげようおもしろい大学フォーラム」を実施し、学生・教職員及び地域住民等、約300名が参加している。

（４）その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

データサイエンス必修化の決定

知識基盤社会に貢献できる人材育成に向け、数理・データサイエンスの知識を自らの専門分野へ応用できる基礎力を培うために関連する授業科目を体系化した「数理・データサイエンス教育プログラム」を令和2年度以降に入学する全ての学部生に提供することを決定しており、1年次の教養教育における必修科目「情報処理」において、数理・データサイエンスに関する基本を学んだ上で、数理・データサイエンスに関する科目群の中から興味・関心のある科目を選択履修することにより知識の幅を広げ、これを基に、2年次以降各学部の専門教育の中で、それぞれの専門性を反映した科目群から選択履修することで、より高度なデータサイエンスの知見を得られるよう、プログラムの体系化を図っており、数理・データサイエンスに関する科目群の中から一定の単位数を修得した学生には、プログラム修了証を授与することとしている。

「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおける連携の強化

富山県、県内の医薬品産業界及び県内高等教育機関の連携による「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて、主に医学部、薬学部及び和漢医薬学総合研究所教員が、産学官共同で医薬品分野における研究開発に関する共同プロジェクトを実施しており、大学に国内外のトップレベル人材を招へいし、県内企業と共同で県内医薬品産業の強みを活かした医薬品の研究開発を実施したほか、東京圏の学生を対象としたサマースクール等を通じて人材育成に取り組んでいる。

附属病院関係

(教育・研究面)

診療参加型臨床実習や指導教員への教育研修プログラムの充実

卒前の診療参加型臨床実習や地域医療実習のプログラムの充実を図るとともに、附属病院及び富山県内市中病院の指導医を対象に、「指導医養成セミナー」を開催(令和元年度:31名が参加)するなど、高い技術をそなえた医療人を養成するために教育プログラムを行っている。

(診療面)

がんゲノム医療の充実に向けた取組

令和元年9月に富山県内唯一の「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、カウンセラーの配置や専門家会議であるエキスパートパネルの開催により、病院単独でがんゲノム医療を提供できる体制を整えている。

(運営面)

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組

附属病院においては、令和2年2月28日に「帰国者・接触者外来」を設置し診療に当たるとともに、医学部と協力して、PCR検査体制を整備し、富山県からの依頼を受け、PCR検査を実施するなど、新型コロナウイルス感染症に適切に対応している。

地域医療連携の強化

電子カルテシステム内の地域医療連携機能を稼働させ、令和元年度には47医療機関へ増加させるとともに、地域医療連携の強化と病院の役割分担の推進を図るため、富山県内の6病院へと医療連携協定を締結するなどにより、第3期中期目標期間をとおして、患者紹介率75%以上、逆紹介率55%以上の水準を維持している。